

国際水準GAP対応と 高度なトレーサビリティシステムの開発

(三重大学) 松岡真如 (高知県) 朝比奈泰史、藤倉大介、山中知紗、渋谷淳平、猪野亜矢、古味一洋、小松由美、小西弘晃、久永廣和、森永茂生、楠岡紗和、坂田美佳、甲把理恵、清遠亜沙子、森翔汰、川村洋平、横山克郎、正木正和 (JA高知県) 営農販売事業本部、香美営農経済センター

研究の目的

国際水準GAPの実施に向け、GAPの普及推進と取組のレベルアップを図るために、指導体制の構築、IoT活用を進める。具体的には以下を実施する。

- GAP指導の高度化
 - ・GAP実施状況を現場指導に反映し、取組のレベルアップを図る。
- GAP指導の省力化
 - ・電子化により、点検シート回収や実施状況確認に要する労力の省力化を目指す。
- トレーサビリティとの連動
 - ・生産及び流通情報の管理・公証による信頼性の向上、安全性の確保を行う。
 - ・エシカル消費を喚起・促進する。

研究の概要

- GAP指導の高度化
 - ・GAPセミナーの開催
 - ・指導員資格の取得促進、指導の実践

- GAP指導の省力化
 - ・GAP点検支援システムの開発
 - ・JAコスモスのニラ生産者部会において試用・評価

(高知県商工労働部産業デジタル化推進課が主導)

- トレーサビリティとの連動
 - ・トレーサビリティシステムの開発
 - ・JA高知県の営農販売事業本部において試用・評価

- その他の活動
 - ・GAP点検項目の分析
 - ・トラブル発生状況の分析

研究の結果

- GAP指導の高度化：新規指導員：39名、指導件数：2900戸以上 (いずれも2020~2022年度の実績)
- GAP指導の省力化：GAP点検支援システムを開発
- トレーサビリティとの連動：トレーサビリティシステムを開発